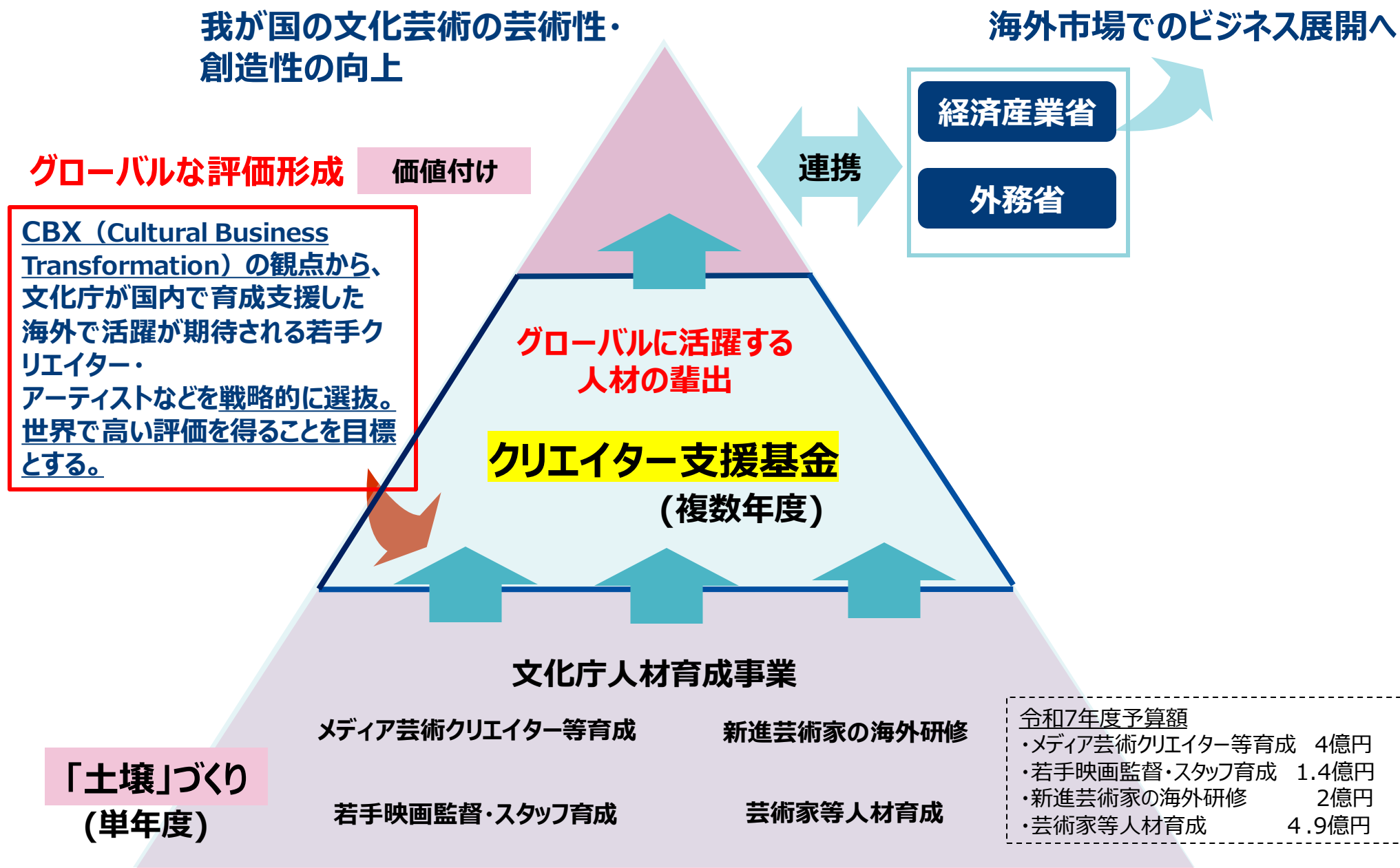

クリエイター支援基金（文化芸術活動基盤強化基金）

令和6年度補正 クリエイター等支援事業 （育成プログラム構築・実践）の募集開始について

令和7年4月

クリエイター・アーティスト支援と海外展開の戦略全体構想





背景・課題

- 我が国のマンガ、アニメ、ゲーム等のメディア芸術は、広く国民に親しまれているだけでなく、海外からも高い人気を得るなど、我が国を代表する文化であり、国際理解の促進、基幹産業となるもの。世界のコンテンツ市場の規模（123.6兆円）は、半導体産業（77.0兆円）より大きく、日本のコンテンツ市場の規模は13.1兆円。日本由来のコンテンツ海外売り上げは4.7兆円であり、アニメ、ゲーム等を中心に、増加傾向。
- 需要が高まる中、製作現場等の人材不足や、必要なスキル習得など、中長期的視野に立ったクリエイターや専門人材の育成への投資は、個社レベルでは限界。
- 持続的に創造活動が行われ、優れたコンテンツが生み出され続けるよう、多様なクリエイター等の育成・環境改善が必要。

事業内容

育成プログラム構築

実践

独立行政法人日本芸術文化振興会に設置する「文化芸術活動基盤強化基金」を活用して、5年程度の活動目的の下で、3年程度弾力的かつ複数年度にわたって人材育成を行うとともに、経産省事業とあわせて、シームレスな枠組みで戦略的に海外展開等を推進する。（3年・95億円）

具体的には、クリエイター等の国内外での活躍を促進するためには、クリエイター（漫画家、アニメーター、作曲家、脚本家等）や海外展開に長けた専門人材（編集者、プロデューサー等）が、創造活動の企画開発・発信・交渉・IP開発・ライセンス管理・先端技術を活用した制作等に必要なスキルを身につける必要があります、以下の取組を実施。【分野：マンガ、アニメ、ゲーム、映画、音楽、舞台 等】

コンテンツ分野における産学官連携による教育機関の機能強化支援

大学・専門学校と企業・関係団体等が連携して、これらのスキルを可視化するとともに、これらを海外も含めた実践の場で習得する育成プログラム等を開発・実装化する取組を一貫して支援

コンテンツ創造・海外展開のための実践的な社会人育成支援

コンテンツ関係企業・団体等が、これらのスキルを海外も含めた実践の場で習得する育成プログラム等を開発・実装化する取組を一貫して支援

◆一元的な情報発信・相談・調査研究機能を強化するための体制強化

- ・相談窓口・情報発信の一元化、専門的な審査体制とアドバイザー配置、
- ・国際的な動向を含めた分析・評価、体制強化を行う。

コンテンツ分野のマネタイズ化を目指し、「文化と経済の好循環」を生み出す人材育成から海外展開へ

経産省におけるクリエイター支援・事業者支援

* 経済産業省と共同実施

アウトプット（活動目標）

- 各事業の支援を有機的につなげ、以下目標達成へ
- ・育成対象者の参加者数
- ・海外進出に資する育成プログラム等の開発件数

短期アウトカム（成果目標）

- ・育成者の製作関連業務への従事率
- ・育成者の作品の国内外の評価（受賞・ノミネート数）
- ・世界的に認知される国際フェスなどへ出品・参加支援した育成者の作品の受賞・ノミネート数、批評家、専門家等の評価

長期アウトカム（成果目標）

- ・育成対象者が継続的に国内外で活躍
- ・我が国のコンテンツ産業の振興・発展に資する
- ・海外における評価の維持・向上、日本プレゼンスの向上へ寄与

（担当：文化庁参事官（芸術文化担当）付）

クリエイター等支援事業(育成プログラム構築・実践)

対象となる分野のイメージ

分野	育成プログラムが対象とする職種の例（例示）
マンガ	漫画家、編集者 等
アニメ	アニメーター、監督、プロデューサー 等
ゲーム	ゲームクリエイター、ゲームデザイナー 等
実写映画・アニメ映画	映画監督、プロデューサー、脚本家、 VFXクリエイター 等
音楽(主にポピュラーミュージック)	作曲家、プロデューサー、制作者 等
舞台(主にエンタメ)	演出家、脚本家、プロデューサー 等
デザイン、ファッション、建築、 分野横断的新領域	作家、キュレーター、コーディネーターデザイナー、 パタンナー、建築家、空間デザイナー、作家、 プロデューサー 等

審査基準等にみられるR5補正とR6補正事業との違い

	令和5年度 若手クリエイター等育成支援事業	令和6年度 クリエイター等支援事業 (育成プログラム構築・実践)
支援対象	国際的な活躍が期待される 若手クリエイター等の海外展開 	大学・専門学校等と企業・関係団体等が連携し、 スキルの可視化と国際的な実践の場で習得する 育成プログラムの構築・実践
主な審査基準	育成対象者の将来性、指導者の専門性 ● 海外での活躍が期待できる若手の育成対象者の目的・方法・選定理由が明確かつ適正であること ● 「目利き」としての指導者に海外実績を有する高い専門性が認められること (取組例) ・若手クリエイター等を選抜、海外発信までを支援 ・国際的なフェス・見本市での発信支援	産学連携による海外展開を見据えた育成プログラム構築の実現性・将来性 ● 業界が必要なスキルを習得するためのプログラムの目的・方法等が明確かつ適正であること ● 高い専門性や国際的な企業・団体との連携体制が認められること (取組例) ・スキル調査、スキル標準・マップ等作成 ・国際的な実践の場を含めたプログラム開発・実証(専攻、コース、育成プログラム等の構築) ・就業・労働環境改善に向けた取組 など
審査員のイメージ	● 海外展開や、国際的な人材育成に知見を有する有識者 ● 文化的・社会的・経済的な分析に関する専門家	左記に加え、 ● 大学・専門学校等の職業教育プログラムの専門家

グローバルに活躍する人材の育成・海外展開に重点を置いた審査

クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）の公募について

審査基準等の概要

① 組織

（目標・計画）（産学官連携体制）（運営・財務）

国際的なネットワークを十分に有し、産学官連携体制となっていること

② 事業計画

（目的）（成果目標等質的保障）（予算）

が明確であり、プロジェクトに盛り込むべき観点等を満たすこと
（例）

- ・必要なスキル調査、スキル標準・マップ等作成
- ・国際的な場を含めたプログラム実証・実証（専攻、コース、職業教育）
- ・国内外の関係機関や専門家等から評価
- ・就業・労働環境改善に向けた取組

《加点要素1》

期間中又は終了後、学科、研究所等の設置を想定、かつ当該業界に期待されているものであること

《加点要素2》

初等中等教育段階の教育に関する取組

③ 人材育成

（育成）

目標達成のための方法・内容等の具体性・適正性・効率性が妥当であること

（指導者）

育成方針・方法等の適切性、指導者等の高い専門性

（国際的なネットワーク）

国内外の関係者・団体等との協力関係、産学官の連携体制

④ 海外展開

（芸術性・創造性・発信力）

国際的な実践の場の選定理由、発信力

⑤ 将来性

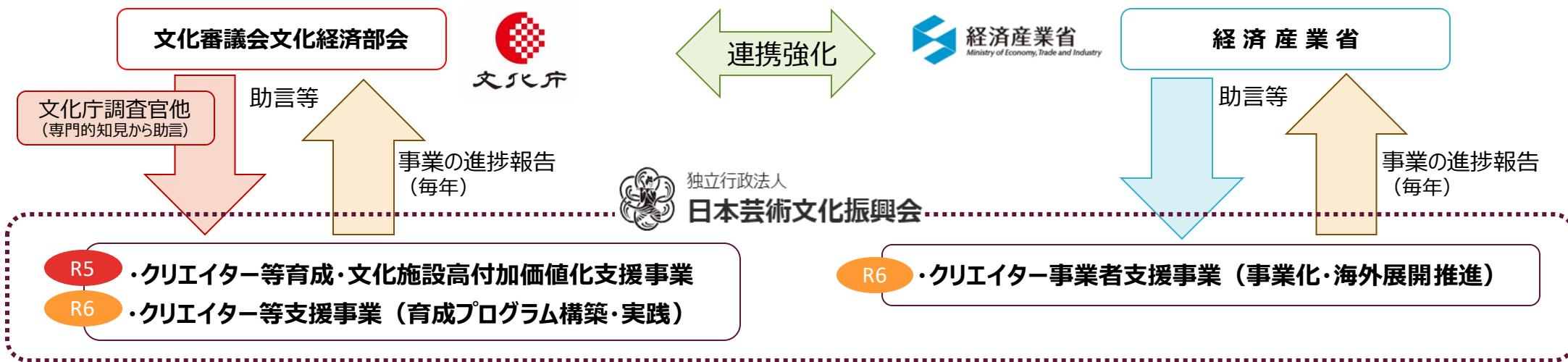
（国際的プレゼンス向上）

終了後もクリエイター等の海外展開に向けた育成に貢献することが見込まれること

（育成面）

国内外の幅広い大学・専門学校等、企業・団体等との連携による体制整備、多様な人材の育成・確保が見込まれること

「クリエイター支援基金」に係る体制について



(独) 日本芸術文化振興会における体制整備

【制度設計・進捗把握・助言・成果検証】

事業検証委員会

- ・アドバイザー (アニメ、ゲーム、マンガ、映画、音楽、舞台、現代アート等)
- ・分析者 (効果分析事務受託事業者またはその協力者) 等

- R5** クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業検証委員会 (令和7年6月設置予定)
- R6** クリエイター等支援事業・クリエイター事業者支援事業検証委員会 (令和8年6月設置予定) **(文化庁・経産省関係)**



【基金管理事務／広報／効果分析】

基金部 (基金管理、運営事務)

受託事業者 (広報事務／効果分析事務)

【採択審査 (案)】

<補助事業>

部会

- R5** ※令和6年4月設置
 - クリエイター等育成部会
 - 文化施設高付加価値化支援部会 (博物館・美術館等、劇場・音楽堂等)
- R6** ※令和7年4月設置予定
 - クリエイター等育成プログラム構築・実践部会 **(文化庁関係)**
 - クリエイター事業者支援部会 **(経産省関係)**

<委託事業>

審査委員会

- R5** クリエイター・アーティスト等育成事業審査委員会 (令和6年4月設置)
- R6** クリエイター等支援事業 (育成プログラム構築・実践) 審査委員会 (令和7年4月設置予定)

経済産業省と連携して、クリエイター支援基金の運営を実施。

R 7 年

- ・ 4月 8日 募集要領の公表（相談期間：～4月28日）
 - クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）
 - ・ コンテンツ分野における産学官連携による教育機関の機能強化支援（補助型／委託型）
 - ・ コンテンツ創造・海外展開のための実践的な社会人育成支援（補助型／委託型）

- ・ 4月16日 オンライン説明会の開催

説明会/経産省と合同実施

- ・ 4月30日～ 応募受付開始（受付期間：～5月19日）

- ・ 5月下旬～ 審査

- ・ 6月下旬 採択予定

情報発信/経産省と連携(HP等)